

シ ラ バ ス

(6 年次用)

平成22年度 6年次授業日程表

週	日程	月	火	水	木	金
1	3月29日～4月2日	春 休				
2	4月5日～4月9日	個別計画実習 (第Ⅰ期：平成22年4月5日(月)～ 5月21日(金))				
3	4月12日～4月16日					
4	4月19日～4月23日					
5	4月26日～4月30日					昭和の日
6	5月3日～5月7日	憲法記念日	みどりの日	子どもの日	実習報告週	
7	5月10日～5月14日	全人医学／ユニオンレクチャー ※5月24日(月)ユニオンレクチャー終了後にマッチング説明会/6月4日 健康診断				
8	5月17日～5月21日					
9	5月24日～5月28日					
10	5月31日～6月4日					
11	6月7日～6月11日	個別計画実習 (第Ⅱ期：平成22年6月7日(月)～ 7月23日(金))				
12	6月14日～6月18日					
13	6月21日～6月25日					
14	6月28日～7月2日					
15	7月5日～7月9日	実習報告週(チューターへの実習状況報告等)				
16	7月12日～7月16日					
17	7月19日～7月23日					
18	7月26日～7月30日	夏 休				
19	8月2日～8月6日	夏 休				
20	8月9日～8月13日	夏 休				
21	8月16日～8月20日	夏 休				
22	8月23日～8月27日	夏 休				
23	8月30日～9月3日	個別計画実習 (第Ⅲ期：平成22年8月30日(月)～10月15日(金))				
24	9月6日～9月10日					
25	9月13日～9月17日					
26	9月20日～9月24日	敬老の日	秋分の日			
27	9月27日～10月1日	発表準備期間				
28	10月4日～10月8日					
29	10月11日～10月15日					
30	10月18日～10月22日					
31	10月25日～10月29日					
32	11月1日～11月5日				文化の日	卒試(国試形式) ※2日間
33	11月8日～11月12日					
34	11月15日～11月19日					
35	11月22日～11月26日	勤労感謝の日		卒試(再試)	※期間中1日間	
36	11月29日～12月3日					
37	12月6日～12月10日					
38	12月13日～12月17日					
39	12月20日～12月24日					天皇誕生日
40	12月27日～12月31日					
41	1月3日～1月7日					
42	1月10日～1月14日	成人の日				
43	1月17日～1月21日					
44	1月24日～1月28日					
45	1月31日～2月4日					
46	2月7日～2月11日					建国記念の日
47	2月14日～2月18日					
48	2月21日～2月25日					
49	2月28日～3月4日					
50	3月7日～3月11日					
51	3月14日～3月18日					
52	3月21日～3月25日	春分の日				

科目名：全人医学

場所：大講義室・A講義室・B講義室

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 氏 職 名	地域社会医学・健康科学講座（疫学分野） 教授 西尾 久英
	連絡方法	TEL: 078-382-5540 E-mail: nishio@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
担当教員	役 氏 職 名	外科系講座（麻酔科学分野） 講師 高雄 由美子
	役 氏 職 名	看護部 部長 大島 敏子
	役 氏 職 名	内科系講座（ゲノム医療実践学部門） 准教授 高岡 裕
	役 氏 職 名	内科学講座（へき地医療学分野） 教授 橋本 正良
担当教員 (学部外)	役 氏 職 名	神戸大学大学院法学研究科 教授 丸山 英二
担当教員 (学外)	役 氏 職 名	環境省 水・大気環境局大気環境課 課長 山本 光昭
	役 氏 職 名	兵庫教育大学 教授 細澤 仁
	役 氏 職 名	国立病院機構京都医療センター 予防医学研究室 室長 坂根 直樹
	役 氏 職 名	兵庫県 理事 細川 裕平
	役 氏 職 名	神戸常盤大学 学長 上田 國寛
	役 氏 職 名	兵庫県スモンの会 会長 春本 幸子
	役 氏 職 名	滋賀産業保健推進センター 所長 杉本 寛治
	役 氏 職 名	西本クリニック 院長 西本 隆
	役 氏 職 名	大阪大学大学院医学系研究科 漢方医学講座 医師 大塚 静英
	役 氏 職 名	兵庫医科大学 遺伝学講座 教授 玉置 知子
	役 氏 職 名	大阪大学大学院医学系研究科 漢方医学講座 准教授 西田 愼二
	役 氏 職 名	神戸薬科大学 生薬化学 教授 守安 正恭
	役 氏 職 名	東京検疫所 東京空港検疫所支所 支所長 永田 充生
	役 氏 職 名	六甲病院 緩和ケア病棟 部長 安保 博文
学 習 目 標	全人医学講義は、「系統講義の中では取り上げられない内容であるが、臨床医師としての活動には絶対に必要な知識や考え方を示しておきたい」という趣旨で開講されてきました。チーム医療、治療者－病者関係のダイナミックス、薬害、法律と倫理、保健行政、産業医活動、東洋医学、緩和医療、等々について、君たちの理解が一段と深まることを願っています。	

講義の概要・形式	ここでは、それぞれの分野の第一人者によって、チーム医療、治療者－病者関係のダイナミックス、薬害被害者の悲嘆、法律家の立場からみた医師活動、行政の立場からみた医療・保健、産業医活動、東洋医学の考え方、緩和医療の目指すもの、等々が講義されます。これらの内容は系統講義の中では十分に取上げられなかったものでありますが、臨床医師としての活動には必要不可欠となっているものばかりです。医学部最終学年の君たちには、この全人医学を通じて、医療の今日的問題とそのアプローチ法をしっかりと学んでいただくつもりです。
講義内容	(1) 薬害 (担当教員：春本) 医薬品には効果と同時に、必ず副作用があります。副作用がそれだけに止まらず、看過できない被害を人体にもたらした場合が薬害です。日本の代表的な薬害であるスモン（キノホルム薬害）を例に、日本の薬害の歴史、被害実態、日本で多発した原因などについて概説し、日常の診療の中での薬害防止について考えたいと思います。 (2) 対人関係 (担当教員：細澤) 治療関係は専門的関係ではありますが、ただ良い治療を提供すれば良い関係が築くことができるというわけにはいきません。臨床の現場では、治療そのものについてはもちろん、患者との対人関係において様々なストレスを体験することになります。講義では対人関係をいかに理解するかという点について、精神分析の観点から検討するつもりです。また、特にトラブルが生じやすいパーソナリティ障害の特徴を持つ人々への対応についても考えてみたいと思います。 (3) 地域医療 (担当教員：細川) 現在、兵庫県で対応している医療関連施策や考え方の基本 (SEE, ASSESSMENT, PLAN, DO)、施策の具体的実施手法など基本的な考え方を事例を使い講義します。具体例としては (1) 医療確保施策 (2) 新型インフルエンザなどの感染症施策等を例示として考えています。講義を通じて、臨床にかかわる医師として社会との関連を理解し、医学というよりはこれからの医療のあり方、自己研修の方向性についての考え方の基本を講義します。 (4) 行動科学 (担当教員：坂根) 本邦でも食生活やライフスタイルの近代化に伴い、糖尿病をはじめとする生活習慣病が増加しており、その対策が急務である。しかし、患者さんに一方的に食事や運動指導を行うと、「食事制限をするとストレスがたまる」「運動する時間がない」などと言い訳をする場合がある。これを心理学では「抵抗」とよんでいる。この抵抗を減らし、楽しく患者さんをやる気にさせる手法を我々医療従事者は身につけたい。患者さんの変化ステージ（無関心期、関心期、準備期、実行期、維持期）を知り、それに合わせた行動科学的手法や動機づけ面接を用いることで患者の行動変容を促すことができる。そして、患者さんが治療に参画することで、その効果は高まる。患者さんは問題解決能力を持っており、それを上手に引き出し、自分でもできるという自信をもってもらう援助とはどのようなものかについてご紹介したい。 (5) 東洋医学 (担当教員：西本) 漢方医学は、紀元前4世紀頃に中国において編纂された「黄帝内経」という書物にその原型をみるが、その後、中国国内においては中国伝統医学として発展し、それを輸入した日本においては、15世紀頃から「漢方医学」として独自の体系化がなされてきた。その特色は生薬による治療と針灸治療であるが、昨今、西洋医学の発達の方で、西洋医学では十分な対応ができない症状や疾患に対して、漢方治療が大きな効果を挙げることが認知されてきている。講義では、漢方医学の歴史・基礎を解説するとともに、臨床医学としての漢方が、西洋医学に対してどの分野でアドバンテージを持ちえるか、あるいは西洋医学をどのように補完しうるか、について紹介していきたい。 (6) 遺伝カウンセリング (担当教員：玉置) 遺伝性疾患は患者本人の問題であることはもちろん、遺伝的な変異を共有する血縁者を巻き込んだ問題に発展するため、その状況を認識した医療が必要です。遺伝カウンセリングは、遺伝的な疾患に悩む患者さんやご家族、不安に直面する方々が、遺伝や遺伝子の情報を正しく理解した上で、個人の自律性に基づきその個人が今後とるべき道を決定すること、を援助する医療行為です。しかし遺伝カウンセリングが医療の一分野であるとの認識はまだ低いように感じます。コミュニケーションスキル、心理的なケアや、社会との

接点も重視されるので、これまで最先端の医学を学んでこられた皆さんは多少の違和感を持たれるのではないのでしょうか。兵庫医科大学は、日本の医学部の中では最も早く遺伝に関する独立部署を附属病院内に開設した実績があります。経験例を通して遺伝カウンセリングの目標・問題点を一緒に考えていきたいと希望します。

(7) 遺伝子医療の倫理 (担当教員：上田)

遺伝子診断から治療における研究の展開と医療の倫理について解説します。

(8) わが国の科学研究 (担当教員：永田)

皆さんの多くが将来臨床医として活躍されることと思いますが、その臨床における最先端の技術を維持・発展させていくためには研究を疎かにすることは出来ません。研究を主とするのか、臨床を主とするのかのスタンスの違いはありますが、医師である以上、研究者的な視点を持つことはとても大切です。本講義では日本で研究を行う際に知っておきたい制度（主に研究費補助金）についてお話したいと思います。また、時間の許す範囲で現在の職務である検疫業務についても概要をお伝え出来ればと思っています。

(9) わが国の保健医療政策と医師の役割 (担当教員：山本)

わが国の保健医療を取りまく環境の変化として、①疾病構造の変化、②少子高齢社会、③価値観の多様化、④経済の進展・低成長、⑤国際化の進展、⑥情報化の進展、⑦科学技術の進歩、⑧健康危機管理事例の多発について解説したうえで、医師と法律・行政との関わり、最近の保健医療政策の動向について解説する。また、厚生労働省医系技官の役割とその仕事の魅力について紹介したい。

(10) 産業医活動 (担当教員：杉本)

産業保健は、あらゆる職業における労働者の身体的、精神的および社会的健康を最高度に維持・増進させることを目的とした企業内における医学的活動の全てをいう。昨今の労働者の健康を取り巻く状況は厳しく、経済活動のグローバル化や激しい競争社会化の中で、就業構造や労働態様が大きく変化してきたことに伴って、メンタルヘルス不調(うつ病)を訴える労働者が増え、また、長時間労働による蓄積疲労が原因で起こってくる「過労死」などが大きな社会的問題となっている。このような状況の中で、産業医(専属、あるいは嘱託)が医師として労働者の健康管理を担っており、今後ともその役割が一層求められつつある。すなわち、医師の将来において、臨床医としての医師像だけでなく、企業産業医あるいは開業産業医もそのチョイスとして考えられる時代に至っている。本講義では、産業医とはどのようなものか、そしてその活動はどのようなもので、社会的に何が求められ、医師一人一人がどう産業医になるための修練を積んでいくのかといった具体的な産業保健の全体を理解できるように話すつもりである。

(11) 糖尿病内科領域の漢方治療 (担当教員：大塚)

紀元前4世紀頃から中国において編纂されたといわれる『黄帝内経素問』奇病論編に、「消渴」という言葉があります。「消渴」とは、口渇、多飲、多尿など、私たちが糖尿病と呼んでいる病気の症状とそっくりなものをいい、脂っぽいものなどを食べ過ぎると「消渴」になると考えられています。漢方薬には十分な血糖降下作用を認めるものはなく、現在の糖尿病治療では、食事療法、運動療法、経口糖尿病薬やインスリン療法によって、血糖をコントロールすることが基本となっています。漢方薬は、糖尿病患者の合併症による症状(神経障害や血行障害によっておこる、痺れ、便秘、冷えなど)の軽減や合併症予防のために使われています。糖尿病治療に実際にどのように漢方治療を併用していくのか症例をまじえてお話します。

(12) ペインクリニック領域の漢方治療 (担当教員：高雄)

麻酔科の業務には周術期の麻酔管理、術後の全身管理とペインクリニックがある。この内ペインクリニックでは様々な痛みの治療を経験するが、痛みのメカニズムはまだまだ解明されていない点が多い。特に難治性慢性疼痛で

は「これをすれば治る！」といった治療法が確立されておらず、神経ブロック、薬物、理学療法を組み合わせた挑戦の日々である。最近われわれはこの難治性疼痛の治療に漢方薬を取り入れてきた。近年、東西医学の融合の重要性が認識されているが、日本の漢方医学は6世紀前半に中国からもたらされ日本の国情に合わせて工夫改良され日本独自の発展を遂げ今日に至る。今回の講義では痛みの治療における漢方薬の役割や効果についてのわれわれの取り組みを自験例を中心に紹介する。

(13) チーム医療（担当教員：大島）

現在の医療は、所定の期間内に、必要な医療を、効率的に、行う必要がある。そのため、関連する各診療部門の緊密な連携によって治療計画を立て、それに基づいて医療を実施し、評価し、改めて計画を見直すという、Plan-Do-Check-Actionの管理サイクルを実践することが求められる。現在医療に従事する職種は30種以上、これらの人々と緊密な連携をとるために行うカンファレンスには、コミュニケーションスキルが必要となります。そのため、平成19年度に院内のご意見箱に寄せられた患者さんのご意見から、医学部生に関する事柄を取り出しお話しする。また、臨床で行われるチーム医療の要素、1. 専門性志向 2. 患者志向 3. 職種構成志向 4. 協働志向を考察する。

(14) 心療内科領域の漢方治療（担当教員：西田）

心身症はよく、軽症うつ病や自律神経失調症のようにとらえられているが、ストレス性胃潰瘍や、過敏性腸症候群などの、「ストレスが発症や経過に影響を及ぼしている身体疾患」である。よって心身症の治療には身体と精神の両者に対するアプローチが必要である。漢方医学は身体と精神を分離せず、一体として考えるため、心身症の治療に大変有用である。講義では、心身症の概念、よくみられる心身症各論、そして心身症治療によく使用する漢方薬などを解説する。

(15) 生薬分析（担当教員：守安）

漢方製剤は種々の生薬から成り立っている。それぞれの生薬には重要な成分が含まれ、それが薬効に関わっている。生薬は天然物であるので品質のばらつきも大きい。同じ名前の生薬でも基原植物の種が2つ以上あり成分組成が違ったり、産地、加工（修治）法によっても品質が大きく異なり、使用上の注意が必要である。不適切な使用で薬効が期待出来ない場合や、時には誤用により健康被害を起こした例すらある。良質な生薬製剤を安定して使用するにあたって考えるべき点を解説する。

(16) 東洋医学と個別化医療と鍼灸（担当教員：高岡）

鍼灸治療とは、我が国の伝統医学である東洋医学の治療法であり、生薬を用いた漢方治療と一対をなしている。ヒトゲノム解析の完了後、ゲノムに記録されている個人の体質情報を利用したテーラーメイド医療（ゲノム医療）実現に向けて研究が進められている。以前は「画一的な治療行為をおこなう西洋医学の欠点」に対して「東洋医学のアドバンテージは、個人個人の体質に合わせた治療」にあると謳われ、最近では「未病を治する」とも言われる。これらは、「テーラーメイド医療」や「予防医学」と同義といえる。本講義では、(1)ゲノム医療の現状、(2)ゲノム情報の再構成や医療応用等を解説し、引き続きゲノム科学の切り口で鍼灸を解析した意義と結果、すなわち(3)骨格筋に及ぼす鍼通電治療の効果、特にミオスタチン遺伝子とユビキチンリガーゼ遺伝子の発現抑制効果、(4)鍼通電治療効果の分子メカニズムを紹介し、今後の可能性について考察したい。

(17) 医療・医学における倫理と法（担当教員：丸山）

生命倫理の基本原則について触れたあと、外科手術、臓器移植、安楽死・尊厳死・終末期医療を例として取り上げ、刑法の基本原則について説明し、あわせて、臓器移植と終末期医療に関する最近の動きを紹介したい。医療事故による法的責任の主要なものとして、①民事責任（損害賠償責任など）、②刑事責任、③行政上の制裁、について、成立の要件と効果および最近の傾

	向を解説する。その中で、インフォームド・コンセントの要件や個人情報保護法制の概要も取り上げたい。 (18) へき地医療 (担当教員：橋本) 日本の総合診療創設にかけた私の経験談 1. 総合臨床医を創る防衛医大 2. 特殊な環境と学生生活 3. 卒業後の進路 4. 幹部候補生学校 5. 時代にさきがけた初任実務研修(研修医) 6. 米軍医療施設への問いかけとサンフォード 7. 大津駐屯地と米留準備 8. 米国臨床留学 UPMC レジデントとして 9. 衛生学校教官 10. 国連P.K.O.参加 11. 東京大学医学部での臨床医学研究 12. 朝霞駐屯地医務室 13. 神戸大学医学部 総合診療部創設 14. 医学教育改革 PBLとOSCE 15. 総合病床と文科省の支援 16. 6年生に伝えたいこと (19) 終末期医療と緩和ケア (担当教員：安保) 進行癌を患った人は、身体・心理・家族・社会・環境・宗教・生と死への考え方など、各方面でそれ以前にはなかった問題を生じ、生活が損なわれていく。 緩和ケア病棟では、患者と家族の生活状況を全体的にとらえたうえで、実現可能な患者・家族の希望を引き出し、その希望の実現のために障害となっている問題を一つ一つ解決していくか希望や問題を別の形に置き換えるとともに、患者や家族の人間関係を再構築することによって、癌によって損なわれた生活全体を改善することを目指している。今回の講義では、緩和ケアを行う上で必要な考え方を概説した上で、症状緩和の方法・難しい場面でのコミュニケーションのとり方など緩和医療の具体的な技術についてお話ししたい。
教科書・参考書等	
成績評価方法と基準	講義の出欠を重視する。なお、病気など事情があった場合には、申し出により考慮する。

大講義室・ 金曜日：A講義室・B講義室 授業科目名（全人医学）

週	月 日（曜）	時 間	講 義 題 目	担当
1	5月24日（月）	13:20-15:30	薬害	春本
1	5月25日（火）	10:10-12:20	対人関係	細澤
1	5月25日（火）	13:20-15:30	地域医療	細川
1	5月26日（水）	10:10-12:20	行動科学	坂根
1	5月26日（水）	13:20-15:30	東洋医学総論	西本
1	5月27日（木）	10:10-12:20	遺伝カウンセリング	玉置
1	5月27日（木）	13:20-15:30	遺伝子医療の倫理	上田
1	5月28日（金） B講義室	10:10-12:20	わが国の科学研究	永田
1	5月28日（金） A講義室	13:20-15:30	わが国の保健医療政策と医師の役割	山本

大講義室・ 金曜日：A講義室・B講義室 授業科目名（全人医学）

週	月 日（曜）	時 間	講 義 題 目	担当
2	5月31日（月）	10:10-12:20	産業医活動	杉本
2	5月31日（月）	13:20-14:20	糖尿病内科領域の漢方治療	大塚
2	5月31日（月）	14:30-15:30	ペインクリニック領域の漢方治療	高雄
2	6月1日（火）	13:20-15:30	チーム医療	大島
2	6月2日（水）	10:10-12:20	心療内科領域の漢方治療	西田
2	6月2日（水）	13:20-15:30	生薬分析	守安
2	6月3日（木）	10:10-12:20	東洋医学と個別化医療と鍼灸	高岡
2	6月3日（木）	13:20-15:30	医療・医学における倫理と法	丸山
2	6月4日（金） B講義室	10:10-12:20	へき地医療	橋本
2	6月4日（金） A講義室	13:20-15:30	終末期医療と緩和ケア	安保

科目名：ユニオンレクチャー

場所：大講義室（一部A講義室）

区 分	内 容	
学習指導教員 (コーディネーター)	役 職 氏 名	内科学講座（総合診療内科学分野） 教授 秋田 穂束
	連絡方法	TEL：078-382-6596 E-mail: ahozu@med.kobe-u.ac.jp
	備 考	
学 習 目 標	疾病構造の変化から、くの診療科が関わるケースが医療現場では増えてきている。複数の診療科が関わる症例を選択し、各々の診療科の専門医が病態の診断ならびに治療法に関して活発に討論し、最善の方法を選択していくまでの過程を学生も参加して学ぶことを目標とする。ぜひ、チーム医療と全人的医療の大切さを学んでいただきたい。	
講義の概要・形式	横断的な症例が選択されており、幅広くさらに高度な知識が要求される。学生にも討論に参加してもらうので、テーマに対して積極的に予習をお願いする	
講義内容/ 学生へのメッセージ	【産婦人科学】 産科出血は妊産婦死亡の主たる原因となりこの対策は非常に重要である。今回我々は癒着胎盤を術前に予見し、放射線科、泌尿器科の協力を仰いで無事に母児救命することができた症例を提示する。 ～メッセージ～ 各科の連携を学び、産科婦人科のダイナミズムを感じ取ってください。 【災害・救急医学】 急速な転帰をとった肺炎症例をもとに、臨床経過を提示する。それをもとに、学生の皆さんに診断を考えて頂きます。その後、肺炎の診断・治療、画像診断、病理診断の実際を解説します。 ～メッセージ～ 定形肺炎と非定形肺炎についてよく調べて来て下さい。 【腎泌尿器科学】 各種手術法、各種放射線治療の解説と治療選択について講義する。 ～メッセージ～ 教科書にも記載されていない、最新のエッセンスをお話しします。 【形成外科学】 近年、糖尿病や末梢動脈性疾患（PAD）の増加に伴い、糖尿病性足潰瘍や重症下肢虚血（CLI）患者の救肢のニーズが高まってきている。フットケアも社会的現象の一つである。今回、同疾患群に対する救肢におけるコラボレーションを説明する。 ～メッセージ～ メタボリック症候群の予防が叶わず、足に潰瘍を生じた患者に対する医療の重要性を学習して下さい	

講義内容/ 学生へのメッセージ	【麻酔科】 半年前から背部痛が出現し、精査を受けたが原因が判明せず、ペインコントロール目的で当院受診した時点では進行膵臓癌であった症例を通して、癌性疼痛に対する対処法(薬物療法や神経ブロック)、治療における外科的及び内科的アプローチについて学ぶ。また最終的に在宅や緩和ケア病棟に移行してゆくプロセスを学ぶ。 ～メッセージ～ 実際にわれわれが経験した症例を提示し、治療のみならず治療終了後の経過も学習します。 【神経内科】 健診で心電図異常を指摘され、精査したところ睡眠時無呼吸も確認された。数年前からつま先立ちができない。筋力低下の局在診断と、他臓器の異常をふまえた鑑別診断を学習する。 ～メッセージ～ 複数の疾患を抱えている場合、まず一元的に説明できないか考えてみてください。 【感染症内科学】 ～講義内容・メッセージ～ 臨床診断アプローチの要諦と一緒に議論します。診断のキモは病歴です。次に身体診察です。ここで8割ぐらいは決着がつきます。そして次に検査ですが、闇雲に（昔の大学病院みたいに）検査の絨毯爆撃をやってはいけません。 では、検査の絨毯爆撃を必要とする要件とは何か。それも考えてみましょう。 【免疫内科学】 大動脈炎症候群に関する、免疫学的、循環器内科学的、外科学的アプローチを総合的に講義する。 ～メッセージ～ 免疫から手術まで、面白いと思いますよ！ 【口腔外科学】 ①有病者歯科医療 ②心疾患（今回は心房細動）への抗凝固治療中の患者および関節リウマチ患者（B P 製剤投与患者）における歯科観血的処置 ～メッセージ～ 口腔という一臓器のさまざまな疾患に対する理解を！「たかが抜歯、されど抜歯」を感じてください。 【循環器内科】 気管支喘息の既往をもつ患者が、下肢に塞栓に伴う皮膚潰瘍が出現し、入院された。さらに心不全症状もあるために心エコーを施行すると、高度に心機能が低下しており、左室内に血栓が認められた。 ～メッセージ～ 鑑別診断、病態をしっかりと考えて、検査治療計画を考えてください。
教科書・参考書等	各科のプリント
成績評価方法と基準	出席点

平成22年度6年次ユニオンレクチャー講義予定表

講義室:大講義室(金曜のみA講義室)

回	月日(曜)/時間/担当	講義項目	関連講座
1	5月 24日(月)	癒着胎盤 ～症例から学ぶ～	泌尿器科学 放射線医学
	15:40～17:10		
	産科婦人科学 竹村 直也		
2	5月 25日(火)	非定型肺炎	呼吸器内科 病理診断科
	15:40～17:10		
	災害・救急医学 川嶋 隆久		
3	5月 26日(水)	限局生前立腺癌の最新の治療法	放射線医学
	15:40～17:10		
	腎泌尿器科学 武中 篤		
4	5月 27日(木)	重症下肢虚血(糖尿病性足潰瘍を含む)の救肢	循環器内科学 血管外科学
	15:40～17:10		
	形成外科学 寺師 浩人		
5	5月 28日(金)	背部痛のペインコントロール目的で受診し、進行膵臓癌が判明した1例	肝胆膵外科学 腫瘍内科学 地域連携室
	15:40～17:10		
	麻酔科学 高雄 由美子		
6	5月 31日(月)	心電図異常、睡眠時無呼吸、四肢筋力低下を示した症例	呼吸器内科学 循環器内科学
	15:40～17:10		
	神経内科学 関口 兼司		
7	6月 1日(火)	頭痛、発熱、意識障害	神経内科学
	15:40～17:10		
	感染症内科学 岩田 健太郎		
8	6月 2日(水)	大動脈炎症候群	循環器内科学 心臓血管外科学
	15:40～17:10		
	免疫内科学 森信 暁雄		
9	6月 3日(水)	全身疾患と歯科観血的処置	循環器内科学 免疫内科学
	15:40～17:10		
	口腔外科学 南川 勉		
10	6月 4日(金)	気管支喘息の既往をもち、血栓塞栓症状を伴う心機能低下の一症例	循環器内科学 免疫内科学 呼吸器内科学
	15:40～17:10		
	循環器内科学 山下 智也		

科目名：個別計画実習

区 分	内 容	
学習指導教員 (チューター)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野教授・准教授(別表のとおり)
	備 考	※学生個々のチューターは5年次に決定する。 ※チューターは、個々の学生が計画する実習内容を、大局的な観点から個別に相談・承認・確認し、その実習計画に関して責任を有する。
学習指導教員 (個別計画実習担当教員)	役 氏 職 名	臨床関係各教育研究分野実習担当教員
	備 考	※各分野の実習担当教員は、学生が実習計画を策定するにあたり、各実習期において自科(分野)の実習を希望する学生に対して、その具体的な実習内容・実習先に関する情報提供や相談を行う。また実習協力病院に対して実習受入依頼を行い、時期毎の実習受入可能人数等を調整する。神大病院における実習時は、実習を担当する教員の代表として学生に対応する。
学 習 目 標	本実習は、学生の自主性を重んじ、学生が主体的に考えた実習計画に沿った形で実施するものである。臨床実習のみならず研究室や海外での実習も対象とし、個々の学生に対して臨床関係の教授または准教授がチューターとなり、その実習計画の内容を吟味し指導を行う。 臨床実習では、5年次に行ったBSL(Bed Side Learning: 大学病院の全臓器別診療科を回り幅広い臨床経験を積む実習)とは異なり、医療チームの一員として診療に積極的に参画するクリニカル・クラークシップにより深い知識や診察スキルを習得し、卒後研修につながる臨床実習を目標とする。 海外の実習では、外国での臨床実習または研究を通じて、異文化交流を深め、国際的な視野の獲得に勤めることを目標とする。 研究実習では、基礎研究に加えて臨床研究も対象とし、最先端の医学に触れ、サイエンスへの探究心を育むことを目標とする。	
実 習 の 形 式	実習期間を大きく次の3つの期間(実習期)に分ける。 第Ⅰ期：平成22年4月 5日(月)～ 5月21日(金) 第Ⅱ期：平成22年6月 7日(月)～ 7月23日(金) 第Ⅲ期：平成22年8月30日(月)～10月15日(金) 原則として実習期ごとに異なる実習目的(実習分野)を掲げることとし、各期において設定した実習目的に基づき、個々のチューターと相談しながら実習計画を策定・実施する。各期において実習報告日を設け、実習状況を報告・確認するとともに、全実習終了時には実習内容に関する発表会を行う。	
臨床実習について	実習協力病院に対して実習を依頼し、実習協定書を取り交わす。 あわせて「臨床実習の手引き」を作成・送付する。	
成績評価方法	各チューターが、担当する学生の全期を通した評価を行う。 チューターは、各実習先における指導責任者の評価や、各期実習報告時の面談等における評価、自己評価及び発表会における評価等に基づき可否を判定する。 発表会における優秀者は、卒業証書授与時に表彰する。	

区 分	内 容
(別表) チューター一覧 (H22)	平田 健一 循環器内科学 教授
	西村 善博 呼吸器内科学 准教授
	森信 暁雄 病態検査医学 准教授
	久津見 弘 社会医学講座 地域ネットワーク学 特命教授
	豊永 高史 消化器内科学／光学医療診療部 准教授
	清野 進 糖尿病・代謝・内分泌内科学 教授
	小川 渉 糖尿病・代謝・内分泌内科学 准教授
	荻田 典生 神経内科学 特命教授
	南 博信 腫瘍内科学 特命教授
	向原 徹 腫瘍内科学 特命准教授
	松井 利充 血液内科学 准教授
	岩田健太郎 感染治療学（感染症内科） 教授
	秋田 穂束 総合内科 教授
	橋本 正良 へき地医療学 特命教授
	杉村 和朗 放射線医学 教授
	藤井 正彦 放射線医学 准教授
	佐々木良平 放射線医学 特命准教授
	松尾 雅文 小児科学 教授
	竹島 泰弘 小児科学 准教授
	横山 直樹 小児科学 准教授
	飯島 一誠 小児科学／こども発育学 特命教授
	船坂 陽子 皮膚科学 准教授
	田中 究 精神医学 准教授
	平井みどり 薬剤学 教授
	黒田 大介 食道胃腸外科学 准教授
	具 英成 肝胆膵外科学 教授
	堀 裕一 肝胆膵外科学 特命准教授
	大北 裕 心臓血管外科学 教授
	岡田 健次 心臓血管外科学 特命准教授
	黒坂 昌弘 整形外科 教授
	土井田 稔 整形外科 准教授
	甲村 英二 脳神経外科学 教授
	丹生 健一 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授
	大月 直樹 耳鼻咽喉科頭頸部外科学 准教授
	山田 秀人 産科婦人科学 教授
	田原 真也 形成外科学 教授
	寺師 浩人 形成外科学 准教授
	一瀬 晃洋 形成外科学 特命准教授
	川嶋 隆久 災害・救急医学 准教授
	伊藤 智雄 病理診断学／病理部・病理診断科 特命教授
	山崎 峰夫 総合臨床教育・育成学 特命教授